

第3回大田市学校のあり方に関する実施計画検討委員会 会議録

日時	令和2年2月18日(火) 15:00～17:05
場所	大田市役所 4階講堂
出席者	委員：16名/23名 (欠席委員：吉川 靖氏、秋森健太氏、宇賀広実氏、山崎まり子氏、 田中はるみ氏、吉田真子氏、近藤健一氏) 事務局：船木教育長、川島教育部長 森本総務課長、錦織総務課長補佐 和田学校教育課長、霊山社会教育課長 布野子育て支援課長、藤原まちづくり定住課長
傍聴人	27名(男性20名、女性7名)
次第	別紙のとおり
概要	以下のとおり
附記	本委員会は原則公開
<p>1. 開会(進行：森本課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の検討委員会での提案により、本検討委員会委員の追加を報告(資料No.1により) 追加委員：藤井伸治氏(大田市中学校校長会 会長) 藤井委員挨拶 ・委員の半数以上の出席(7名欠席)を確認後、本委員会の成立を報告 (検討委員会設置要綱第6条第2項により) <p>2. 報告及び協議(議長：岸本委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 松江から来たが、松江は、大変な雪である。県立大学のキャンパスも、雪かきをしないと通れないほどの雪である。大田は、全く雪がないので驚いている。前回、北三瓶小・中学校で、この会を開催した。その折、渡邊委員の方から、中学校の代表が、この会の構成メンバーに入るべきではないかとの提案があった。もう一つ、時間が短いということで、30分程度延長してはどうかとの提案もあった。そこで、今回の会議時間は2時間を設定している。様々な意見が、皆様から出されて、よりよい検討がなされるようお願いしたい。 本日は、報告と協議事項の二本立てである。出来るだけ、多くの皆様から意見を出していただきたい。ご意見がなかった委員には、最後に、一言ずつ、発言していただこうと思っている。 	
発言者	内 容
石賀委員	冒頭に当たり、私、個人的には教育委員会の方にお聞きしているが、(この会の)委員の役割を、今一度、述べていただき、共通認識の下で、本会に参加させていただきたいと思う。 それから、本会の記録として、録音をしているとのことである。今回で3回目になるが、議事録というものが挙がって来ない。元々、(議事録が)ないものなら仕方がないが、本会を進めるに当たって、振り返りがあった方がスムーズに進むのではないかと思う。前回、前々回と、非常に貴重な質問または回答が出ているので、是非、議事録を、出来れば、事前に郵送していただければ、目を通して、本会に参加できる。もし、それが無理なら、冒頭で、(前回の)議事録を見てから始めてもらおうと、スムーズに会が進むので

	<p>はないかと思う。</p> <p>以上、二点について、よろしくお願ひしたい。</p>
岸本委員長	<p>貴重な意見である。この二点について、事務局の回答をお願ひしたい。</p>
森本課長	<p>一点目の委員の立場であるが、実は、今回の実施計画検討委員会を設置するに当たり、各地域の皆さんからの意見を反映させたいということから、ブロック単位で1名ずつ、地域活動をしている方を、その地域から推薦してもらい、委員になっていただきたいということで、各ブロックのまちづくりセンター長、公民館長に集まっていたいただき、相談をさせてもらったところである。その中で、それぞれのブロックから活躍しておられる方を推薦していただき、お願ひさせていただいたという状況である。決して、それぞれの地域を取りまとめて、意見を出してもらいたいということではなく、(それぞれの地域で)地域活動をされている方の意見を(本会において)聞かせていただきたいということをお願ひしているところである。しかし、地域によっては、その地域の代表として出ているということで、このような意見を伝えて欲しいと頼まれたり、逆に、この会に出ているので、この会の情報を、しっかり地域に伝えなければということで、頑張っている方もいる。教育委員会事務局としては、あくまでも、個人の立場で、活動しておられる中での意見を聞かせていただければということで、お願ひしたところである。</p> <p>それから、二点目の議事録については、本来、事務局の方が取りまとめて、次回の会に向けて、お伝えすべきところである。しかし、現在、地域ごとの説明・意見交換会にも回っているところで、少し議事録の調製が遅れている。(議事録が)出来次第、お知らせしたいと思っている。また、今後は、会が終わり次第、取りまとめができるように取り組みたいと思うので、ご理解願ひしたい。</p>
<p>【報告事項】</p> <p>◎地域説明会での意見について</p> <p>⇒事務局(森本総務課長)より資料No.2に沿って説明</p> <p>付け加え:西部ブロック及び東部ブロックの地域説明・意見交換会は終わっているが、未だ取りまとめが済んでいない。次回の会で、報告させてもらいたい。</p>	
<p>報告事項に係る質疑応答</p>	
発言者	内 容
岸本委員長	<p>私から一つ質問させていただきたい。先程、(各地域での)説明・意見交換会の概要が示されたが、これは、この後、協議するところを含めて、話が行われるということか。</p>
森本課長	<p>この後、意見の集約というところで提案させていただくが、ここ(各地域での説明・意見交換会)で出た意見も踏まえて、事務局として考え方を取りまとめている。その説明の時に、意見をいただければと思っている。</p>
高橋委員	<p>先程の報告の質問というよりも、次の協議の意見交換の部分になるかと思うが、今日の検討委員会に臨むに当たって、私自身、会議の方向性がどうなるのかという半信半疑の気持ちで臨んでいる。というのは、本来、各地域で出た意見というものを、持ち寄って、それを(委員の)みんなで見ても、それらの意見を踏まえて、議論を深めて行くというような流れになるべきものであると思う。未だ、中央ブロックが開催されていないと聞いているし、また、温泉津町の井田地区が、(ブロック説明・意見交換会の時)市長を囲む会と重なり、参加できなかったということで、個別の開催が済んでいないという状態の中で、私達は、今日、どこまで話ができるのかという中途半端な気持ちで臨んでいるというのが、正直なところである。先程、委員長が触れられたが、今日、どこまでの説明をされ、質問したり、協議したりするのか、何か中途半端に感じるが、その辺りを</p>

	どう考えておられるのか、また、その辺りの委員長の差配を期待したいと思っている。
岸本委員長	今のお話は、誰もが思っておられることであると思う。私自身、若干、思っていたところである。この後、協議があるが、これまでの意見が、どこまで反映されて、未だ、開催されていないブロック、地区の意見もあるので、本当は、全てのブロック等の意見が出揃ってから、話し合いをすべきであると思われるが、(事務局として) その辺りを、どう考えておられるのか。
森本課長	事務局としても、全てのブロック等を終えたところで、全ての意見を取りまとめる中で、(本検討委員会において) 協議するのが、正しいやり方であるという認識は持っている。しかし、(地域説明・意見交換会の) 開催の都合で、明日、最終の中央ブロック、また、三瓶ブロックの志学地区及び温泉津ブロックの井田地区については、別途、開催して欲しいとの要望が出ているので、来週の25日と28日を予定している。それら全ての会の意見を取りまとめた後から(本検討委員会に) 臨むのが本当であるということは、重々、知っているが、本会議を開催する日程等の都合もあり、これまでに出た質問、意見を、ある程度、取りまとめする中で、(本検討委員会で) 意見をいただき、実施計画自体の修正を進めて行かざるを得ないと思っている。後程、説明させていただくが、これまでに出た意見を整理させていただき、それについて、質問、意見をいただければと思っているところである。
岸本委員長	今日のところは、これまでの意見を取りまとめたもので、一応の協議はしておいて、また、まとめの時に、今後、開催される場所の意見を取り込んでいくというような流れとして考えていいのか。
森本課長	そのように、させていただきたい。
平田委員	先程、高橋委員が言われたように、最初のスケジュール表を見た時、私は中央ブロックの代表であるが、中央ブロックは、特に、統廃合の対象ではないので、会議の一番最後に回されているという認識を持った。そうは思いたくないが、今日、資料を配られたが、やはり、会議に出るに当たっては、事前に、きちんと読んで参加したいという思いもある。明日、中央ブロック(の地域説明・意見交換会)、そして、25日は志学地区、その後、井田地区もある。それを、きちんと資料にまとめていただき、会議の前に届けてもらい、目を通して、参加したいという思いがある。
渡利委員	<p>私達は、各ブロックから選出してもらっている。個人としての意見でということで、任命されているが、やはり、そういう訳にはいかない。気持ち的にも、自分の意見だけをいう訳にはいかない。同じ子育てをしている世代もいるし、地域に暮らす人間としては、温泉津は大きく分けると4地区ある。温泉津、湯里、福光、井田という4地区である。私は、温泉津に暮らしているが、やはり、井田地区の方がどう思っているのか、井田地区は、通学に関しても、とても遠くなったし、学校が遠くなったので、そこから転居される方があったことも知っている。ということは、ここに出席されている委員は、大きなブロックで分けられているので、気持ち的にも、理屈で言われても納得できない委員の気持ちがあると思う。</p> <p>それから、今、温泉津の事例を出したが、どこの地域に暮らす子どもたちも、どの子も取りこぼしがなく網羅されるような委員の選出という視点を持ってもらいたいと思う。どの地域にも、こういう会があったり、今、こういうことが進行しているということが、親にも子どもたちにも分かるような形の委員の選出であって欲しい。私、個人的には、色んなSNSなどを使って、「今日、こんな会がありますよ」ということを、出来る限り、周知をしている。それで、シェアしていただいている方も沢山いる。それは、すごく大事なことであると思う。先程、出た議事録もそうであるが、私は、大田市総合</p>

	<p>計画にも（委員として）携わっていたが、必ず、議事録が事前に届いて、それに、全部、目を通してから、（次の会議に）参加していた。何もない状態で、この場で資料を出されて、今、読んでということであると、参加する委員も困ると思う。是非、議事録に関しては、なるべく、事前に送っていただく形を取ってほしい。</p>
石賀委員	<p>（会議の）進め方ということについて、第1回目の時から、私、感じていたが、委員の方々は、忙しい中、参加されていると思う。今回の案内にしても、そうであるが、また、ブロック別の説明・意見交換会も、そうであったが、おそらく、期日が決まっている関係上のことであると思うが、非常に、悪い言い方をすると、ある意味、強引な期日で案内されているところがあると感じている。と言うのは、この会が成立するかどうかということを、本来、欠席の場合は連絡すべきと思うが、もし、この会の委員が半数以上いなければ、（この会は）成立するのか、その辺りを、欠席する委員の責任もあろうかとは思いますが、ただ、少し進め方が、非常に、ある意味、強引かなというところを、最初の時点から感じていた。もし、予め、現時点で、今後のスケジュールが、大まかなスケジュールは、以前、いただいているが、（この会議の）開催スケジュールが決まっていれば、早めに教えていただきたい。本日、傍聴で来ておられる方も、そうであるが、平日のこの時間ということ、時間を取り難い部分でもあると思う。皆さん、なるべく、この場に参加したいという気持ちがあると思う。出来る限りというか、なるべく、早く（スケジュールが）分かれば、ただ、その早く分かれば、順序がバラバラになってしまうと、先程のような意見が出たりするので、非常に難しいとは思いますが、その辺り、もう少し配慮してほしい。</p>
森本課長	<p>日程の設定については、次回の日程について、その会で提案させていただき、了承いただければ、それで進めさせていただくという形で、これまでして来た。その後の事務的な段取りで、最終的に案内を発送することが遅れたことについては、事務局の不手際ということでお詫びしたい。</p> <p>次回であるが、調整させていただき、今回、報告することとしていたが、申出のあった議事録等の調製をした上で、しっかり事前の資料を作り、（本会を）開催するとなると、（第4回目を）3月に開催する予定であったが、少し時期をずらす必要があると思う。4月以降で、改めて、調整させてもらう中で、（第4回目を）開催させてもらいたいと思う。</p>
岸本委員長	<p>進行役として、進め方が難しいが、（各委員から）ご意見をいただいた中で、各地域（ブロック）の説明・意見交換会の資料が一部揃っていないところでの進め方、あるいは、議事録がないところで進めることへの不信感、このようなことがある中で、この協議が、どこまで進められるのかということ、総体として、言われていると思う。このことについて、全てが揃った中で、再協議をするのであれば、今日の会議は成立しない。とは言いながら、これまでのところで進めようということ、事務局の方では考えていたと思う。委員の皆様の総意でもって、このことを決めて行きたいと思う。この辺り、如何か。</p>
永野委員	<p>前々回の資料の「よりよい教育環境を目指して 学校のあり方に関する実施計画(案)」で、皆さんからの質問と、それについての回答があったが、その中のことについて尋ねたいことがある。</p> <p>（その資料の）「5 重点的取り組みの実施」の「(1) ふるさと教育」の中に記載のある「学校運営協議会」について伺いたい。今、学校運営協議会が設置されている学校と、されていない学校があるとのことであった。現在、中学校が2校、小学校が4校、学校運営協議会が設置されているとのことであるが、この資料を読んでも、その協議会</p>

	<p>が、十分に機能していないということが、所々で書いてある。それが発足したのは、いつ頃なのかということと、機能していないということは何なのかということも教えてもらいたい。それから、私は子育ても終わって、ここに出ているのは、近所のお婆ちゃんの立場の年齢であるが、私が（そのような）会に参加していた頃も、皆さんの顔触れが同じということがあった。これから、地域の人口が減少して行くので、役員の皆さんの確保というか、不足が考えられるので、その辺の組織のあり方なのか、整理なのか、スリム化というところを検討して、機能できるような協議会、また、その他の組織を考え直していただければ、いいと思う。</p>
岸本委員長	<p>今の意見は、伺ったこととする。それについては、今後、触れるところになる。その点については、少し置かせていただきたい。</p> <p>先程のところであるが、事務局については、これまでのところで、話を進めていきたいということである。委員の皆さんからは、全て（のブロックの意見が）出て、（これまでの）議事録も読み込んでから進めてもらいたいということである。この点について、委員の皆さん、如何か。</p>
岩谷委員	<p>私は、校長会全体の代表として出ている。言われる通り、全てのものが揃ってから、話し合われる方が公平であるし、いいと思う。しかし、こうして集まって、このまま終わりとなると、個人的にどうかなという気持ちで、今、揺れているところである。正直な気持ちを、そのまま言わせてもらった。</p> <p>ただ、日程設定については、非常に無理があるということを、当初から、意見していた。ゴールが、この日と決められている中で、色々と日程が設定される。事務局の方が、様々なことで忙しいということは、重々、承知の上で言うが、やはり、当初から無理があつて、この後、中央ブロック、志学地区、井田地区を開催する中で、今回、決めたことと、全く違う意見が出たら、また、元に戻るのかという不安もある。是非、議事録なども揃った方がいいが、このまま終わりとなると、どうかという気持ちもある。</p>
高橋委員	<p>委員長の話聞いていて、未だ、じっくり来ない部分もあるが、こうして寄っている以上、せめて、これまで出た意見の中で、「自分は、このように思う」という個人的な意見を出して、それは、これから議論を深める意味での材料として、お互いに出し合ったらと思う。</p>
岸本委員長	<p>今、ご提案があつたが、どうか。よろしいか。</p>
委員	<p>（異議なし）</p>
岸本委員長	<p>先程、事務局から、（これまでの各ブロックでの）説明・意見交換会における意見概要を説明してもらった。この点に関して、何か質問などはないか。</p>
松場委員	<p>1頁目に「2/5（水）、（高山地区の）保護者説明会を開催することとした」との記載はあるが、内容が特に書かれていない。この保護者説明会が、どのような内容であつたのかということも聞かせてもらいたい。</p>
森本課長	<p>2月5日に、高山小学校、大森小学校、第三中学校の保護者の皆さんに声掛けして、（説明会を）させていただいた。内容的には、高山ブロックの説明・意見交換会でした説明内容と全く同じである。その上で、保護者の皆さんからの沢山のご意見をいただいた。それについては、具体的、直接的な保護者の生の声であつたので、今回、（委員の）皆さんにお知らせする必要はないと思い、省略させてもらった。それぞれの保護者の思いというところが、随分、出ていたので、そのような形を取らせてもらった。</p> <p>それから、6年生の保護者も出席しておられ、高山ブロックの説明のとおり、新聞報道されたように、皆さんがパニックになられたということ、また、これからどうしたら良いかという相談もあつた。その中で、あの報道を受けて、（今の小学6年生が、中学の）</p>

	<p>3年生になった時に統合するよりは、最初から第一中学校に行きたいという決断をされたご家庭が多く、それに伴って、実際には、そこまで考えておられなかったご家庭も、同級生がほとんどいなくなる状況で、自分の子どもだけを第三中学校に通わせることは出来ないというご意見が具体に出ていた。後は、連動するが、水上保育園の話も出ていた。そういうことが、保護者説明会の中で出たところである。</p>
平田委員	<p>私が聞いたところによると、報道上では、第三中学校の統合に関する白紙撤回という教育委員会の返事であったと。それを、話し合いの中で、これから決めて行くということであったと思うが、違うのか。</p>
岸本委員長	<p>今のことは、次のところに出て来ることなので、他に質問がなければ、そちらに進めさせていただきたい。</p> <p>では、本日の協議事項に入る。事務局からの説明をお願いしたい。</p>
<p>【協議事項】</p> <p>◎実施計画（案）に対するこれまでの意見について（前回までの集約） ⇒事務局（森本総務課長）より資料No.3に沿って説明 この修正案については、先日（2月14日）の教育委員会臨時会で承認してもらった。</p>	
<p>協議事項に係る質疑応答</p>	
発言者	内 容
岸本委員長	<p>資料No.3は、二つに分かれている。一つは、前回の課題でもあった「学校再編の考え方」（3）の①を文言修正をして、再提案されるということである。</p> <p>先程、進め方にもあったように、今日、これを決定するということではない。今日は、意見交換ということで、事務局サイドの考え方であるとか、委員の皆さんの考え方を、色々と意見交換しながら、また、次回、資料が（全部）まとまったところで、最終的に、どのようにして行くのか、（この案を）どのようにまとめて、教育委員会に提言して行くのかということについて、まとめさせていただきたいと思う。</p> <p>では、先ず、1番のところの再提案について、意見交換をしたい。</p>
高橋委員	<p>「学校再編の考え方」について、複数学級でなくなった場合は、再編を検討するということは、そのまま残っている。そして、「第三中学校と第一中学校との統合を検討します」ということである。実は、約10年前に、第三中学校、温泉津中学校、仁摩中学校の統合計画が提案されて、私は、当時の仁摩中学校のPTA会長をしていた。その時と、複数学級の理由付けが、ほとんど同じ文言で書かれている。今回は、その時と違い、全然、響いて来ない。あの時は、仁摩中学校と温泉津中学校は統合をしようというところまで腹を括った。その時の複数学級云々について、先程言ったように、全く、響いてこないということが現実にある。その背景には、色々あると思う。大田西中学校は、統合後、6年を経過している。経過しているにも関わらず、第三中学校のことを含めて、何の分析や検証を、これまでにされていないように思う。それで、いきなり、今回の再編案を出されているので、突然、降って来たような話で、地域住民の皆さんも保護者も戸惑っておられるのが、現実であると思う。いずれは、大田西中学校も生徒数が減って来ることは、私達も覚悟はしている。しかしながら、複数学級でなければならないという理由付けが、非常に分かり辛いというか、響いて来ないというか。では、単学級でも、充分、やれるのではないか。現在でも、やっているのではないか。こういう意見が、必ず出て来ている。仁摩ブロックでの意見交換会でも、その話が、相当出た。逆に、再編するなら、いままでの大田市の第一中学校区、第二中学校区に縛られることなく、適正規模に応じて勘案した統合、再編もあっていいのではという意見も出ていた。これを、私の一点目の意見とする。</p>

	<p>二点目は、私も、当日、質問したが、今回、新しく導入された義務教育学校、特認校、これについては、地域の皆さんの中には、一定の評価をする方もいた。ただ、新しい形ではありながらも、中学校は単学級ではないか、こっちはこっち、そっちはそっちというような、あくまでも、矛盾しているのではないかというような意見が沢山出ている。何故、あそこが良くて、我々はいけないのかという意見である。その点を、もう少し、皆さんと突っ込んで、話が出来ればと思う。</p> <p>それから、一点ほど、私の小言ではないが、私は大田西中学校の学校運営協議会の会長をしている。もう5年目に入っている。先程も、学校運営協議会の話をして、これまで、試行錯誤、本当に手探りで、ここまで進めてやって来たが、機能していないとは思っていない。皆さん、すごく頑張っていて、意見を言って、特に、ふるさと学習については、大田西中学校という地域は、山間地もあれば、海辺の地域もあり、色々な地域が寄り集まった地域で、ふるさと学習をどうするんだということで、現地に出向いてまで、論議をしたこともある。そういったことも含めて、学校運営協議会が、今回、忘れ去られているのが、非常に残念でならない。ましてや、今回の地域（ブロック別）の説明会に、学校運営協議会の方に、一切、案内もなければ、声掛けもなかったということで、委員の皆さんも、大変憤慨している。学校運営協議会が頑張っていることを、はっきり、私の口から、報告しておきたい。</p>
森本課長	<p>1 学年複数学級編成に統合、再編というところであるが、このことも、ブロック別の意見交換会において、沢山の質問が出たところである。事務局としても、これまで通り、説明させていただいたが、選択肢を増やしながらか、今後、生徒に身に付けさせていく事柄のために、そうした環境が必要であることを提案している。が、なかなか、ご理解をいただけないのが実情であると思う。もっと、はっきりと具体的なところの提案をさせていただく必要があると考えている。</p> <p>それから、義務教育学校について、確かに、義務教育学校に指定した学校も、1 学年単学級というような状況の中で、他の学校と、何ら変わりがないという状況を切り離して考えているということはあるが、取り組みとして、小学校、中学校の括りから、一つ外れて、新しい枠になるということから、その枠がどうあるべきかということ、これから取り組んで行く中で、整理して行くことも必要であると考えているところである。取り組みとして、新しい事柄であることから、今回、少し例外的にせざるを得なかったという状況であると考えている。</p> <p>三点目の学校運営協議会であるが、大田西中学校、仁摩小学校、温泉津小学校が、大田市では、最新で設置してもらった学校運営協議会である。従って、この3校の学校運営協議会については、準備期間から、目指すところを、しっかり把握していただく中で設置された状況である。実は、最初に設置した3校については、そうした思いが、少し足りなかったのか、形として、学校の方に、しっかり関わっていただくように、委員の皆さんには出てもらっている。その中で、協議されるのは、学校の方からは、このような1年間の運営をすると、中間報告があり、最後に1年間、このような取り組みをしたという報告をして、それについての意見をいただくという形に終わっているということである。これについては、出来る限り、もっと積極的な関わりを持っていただきたいというのが、事務局の思いであり、仁摩地区の取り組みについては、魅力化コーディネーターも、しっかり関わらせていただき進めている。この取り組みを、市内全域に広げて行きたいというのが、現在の事務局の思いである。</p>
岸本委員長	<p>高山ブロックでの意見交換会に、私も、浜田から帰る途中、参加して、意見を聞かせてもらった。地域としては、学校を残したい。これまで、(この形で) やって来た。何故、</p>

	<p>今なんだというような意見があった。何故、複数学級が必要なんだという説得力が伝わらなかったというところが、非常に大きかったと思う。単学級であっても、教育のやり方は、色々あるのではないかという、そういった革新的なことを大田市でやったらどうかというような意見も、中にはあろうかと思う。こうしたところで、やはり、複数学級なんだという説得力を付けて行かないと、皆さんが、なかなか納得されないという気がした。そのところを、大田市の学校は、将来的には、こういう姿に持って行くんだというところを、皆さんが納得しないと、各論になると、なかなか進まないと感じた。私の考えを述べさせてもらった。</p>
渡邊委員	<p>論点がずれてはいけないが、私、嘗て、県立高校のあり方検討会があり、そこに2年間、ずっと関わっていた。その中で、当時の教育長が、「器ありきの議論はしない」と、先ず、宣言された。つまり、今、我々が議論しているのは、よりよい教育環境の実現を目指して、そのために学校再編が、そもそも必要なのか、必要でないのかということに関して、当時の教育長は、その器を出してしまうと、もう、そのよりよい教育環境を実現する話の核心に入って行けないと、常に、今回のように、再編するのか、しないのかという議論が最優先されてしまって、肝心な中身の部分に入れられないまま、時間切れになってしまうということが、十分に考えられる。今、県立高校は、どうなっているのかと言うと、一番小さい高校は吉賀高校である。1学年1学級という状況である。続いて、小さい高校は、1学年2学級というのが、幾つかある。今、県教育委員会としては、そういった高校に再編の手は付けないというのが、基本的なスタンスである。ただ、それぞれの市町村が、そうは言っても、この地域に、ないとは思いますが、この高校は必要ないとか、あるいは、統合すべきであるという議論が高まって来たならば、それは、その市町村に任せるとというのが、今の県立高校の考え方である。私は、市町村の教育環境を考えるに当たって、(そういう考え方を)少しはベースにしておいた方が、いいという気がしている。というのは、これから、少子化に、どんどん突き進んで行くことは、間違いないことである。そうすると、常に、再編をどうするんだということが、仮に、今回、第一中学校と第三中学校の関係性をどうするかということが、突き進むことにしても、流れてしまっても、また、数年後に、今度は、ここここはどうなんだという話になってしまう。そういう時に、やはり、再編という考え方を採用するのか、あるいは、場合によっては、自然に、子どもの数は減って来るので、地域の覚悟として、(その地域に)子どもがいなくなるかもしれないと、そういう時に、廃校はあり得ないと思うので、休校という考え方もあって、いつか、子どもが戻って来れば、もう一回、学校は復活できるという選択肢も含めて、学校のあり方を考えて行かないと、結局のところは、私、議論としては、「5 重点的取り組みの実施」のところに、言いたいことが沢山あるが、このままであると、ずっと、学校再編の話に、どんどん時間が取られて行く。器ありきの議論を、余り強調すると、地域のあり方にも関わって来ることであるので、非常に難しい問題であると思っている。</p>
平田委員	<p>先程、この教育の問題に関しても、大田市の第二次総合計画に続いて、関連してということですが、この第二次総合計画の中で、「小さな拠点」ということが、最初の方に出ていると思う。今、この統廃合の話の中で、先程、高橋委員が言われたように、過去の振り返りが出来ているのかどうかと。やはり、統廃合により、子どもたちがいなくなった地域は、親は統合した地域に、大田の街中には、どんどん(家が)建っていて、そのような地域から出て来られる方が多いと思う。そのような状況になると、小さな拠点というのは出来るのだろうか考える。子どもや若い人がいなくなり、小さな拠点が作って行けるのかと感じる。先程、渡邊委員が言われたように、小さくても、地域の人たち</p>

	<p>が、そこを大事にして、子どもたちを育てて行ける地域、環境というのを、少し考えていただけたらと思っている。</p>
大國委員	<p>山村留学の代表である。第三中学校の統合については、地域の方と、きちんと話をし、いい方向に向かえばいいと思う。私の考えの中で、このことを、こうしたらいいという(考えは)なかなか難しいので、その地域の人達と、これからどうするかということを進めて行くことが、一番大切なことであると思う。それから、今回、名前が挙がらなかった学校も、全く同じで、ここの学校はこうするというように、先が見えると、多分、親は安心すると思う。それで、この学校のあり方で決まってしまうと、そのまま変えずに行くとなると、少し不安があると思う。</p> <p>もう一つは、義務教育学校とか特認校とか、うちの(地域の)学校に当たるが、今回、この話が来た時に、私達は嬉しかった訳ではない。これが最後だなというような、本当に人数が少ない学校である。だから、この間、大森(高山ブロック代表)の方も言われたが、本当に(児童生徒の)人数が少なく、いつ学校がなくなるのかということ、この10年間、ずっと思いながら、してきたのは、私達、保護者である。私は、今年が最後のPTAで終わるが、今後も地域で色々な協力をしていかないと、もう、この学校は成り立たないと思う。それで、特認校は、区域外から入って来る考えであるが、これは、失敗をすれば、私達は、本当に学校がなくなるという思いで、本当に重たい覚悟で、これを受けなくてはいけないということである。だから、地域の方は、本当に地域の学校を守らなければいけないが、子どもたちが優先で、子どもたちが犠牲になる必要はないので、今、PTAがたった10人で、この学校を何とかして行こうということで、先日、PTAのみんなで話をしたところであるが、本当は、ない方がいいのかもしれないし、本当に、PTA一人ずつの意見を聞いたことではないので分からないが、私は、一応、代表として、みんなの意見を集約して、教育委員会に質問して行くという立場であると、勝手に考えている。本当に、PTAの気持ちもであるが、地域の人達も、みんな同じ思いである。ただ、本当に、ここの学校でいいのかと言われたら、外から沢山入って来た学校に、入れてどうかと思っている保護者もいると思う。みんなの疑問とか、色々な意見を集めて、それで、最後のチャンスを、私達は活かして行きたいと思い、先日、PTAの役員会を開催した。本当に、特認校になったから残れるとか、そのような考え方は、少し違うと思う。最終的に、子どもがいなくなったら、この学校はないというくらいの覚悟を持って、やっけて行かなければいけないと思うので、今日は、地域の方も、沢山来られているので、本当に、自分達の学校のことを考えて、色々な質問や提案をして欲しいと思っている。</p>
岸本委員長	<p>二番目(地域説明会での主な意見)のところについては、次回、加筆して行くということであるが、この二番目のところについても、少しご意見をいただきながら、一番目のところについても、意見があれば、意見を出していただきたい。</p>
松場委員	<p>先日、意見交換会に出ていて、中学校を考える上で、部活動は、かなり大きな意思を決める働きをしていると、すごく感じた。なので、私達、保護者世代は、部活動があつて、当たり前の世代であつたと思うが、これから、多分、部活動という形が変わって来ると思う。というところを、保護者が意識しないで、子どもたちが入る学校を選んだり、地域の中学校のことを考えたりすることがない。この学校のあり方実施計画(案)の8頁の「④部活動のあり方の見直し」について、もう少し、例えば、目安とか、どういう方向になって行くということを保護者の方に伝えてみては如何か。ここの説明を、もう少し詳しく聞かせていただきたい。</p>
岸本委員長	<p>部活動が、どういったやり方があるのか、大会の運営とか、活動の仕方とか、あるい</p>

	<p>は、(学校同士で)一緒にできるのかということであると思う。</p> <p>今日、参加の(中学校長会の代表の)藤井委員、中学校の立場で、現状とこれからの見通しについて、話していただきたい。</p>
藤井委員	<p>今の中学校での部活動は、「部活動ガイドライン」というのがあり、これに従って、市内の中学校で、足並みを揃えて、部活動をしているという状況がある。これについては、勿論、国の方針もあるし、県の方針もある。それから、他の市町の内容も参考にしながら、教育委員会と中学校長会の方とで協議をして、それを遵守しているところである。やはり、一番、問題になるのが、生徒が減って行くということがある。それから、部活動を、主として持っている教員は、どうしても超過勤務が多くなる。それを、どうやって、他の教員でカバーする、あるいは、地域の方々の支援をいただいて、それをカバーして行く。あるいは、将来的には、地域のスポーツクラブであるとか、そこに移して行くということも考えられる。以前、出雲市でされたチャンピオンスポーツですのと、自分の趣味として、裾野を拡げて行くというやり方とでは、中学校では待ち合わないところもあると思う。いずれにしても、部活動については、現在の形は、中学校の教員が顧問をしていて、出来る限り、そこで頑張っていく、後は、それがカバーできないところは、地域の指導者に入って来ていただき、学校の顧問を付けながら、地域の方の力を借りながら、色んな部活動の運営をしていくというのが、今の方向ではないかと思っている。ただ、先程も言ったように、生徒の人数が少なくなって来るということは、学校の学級数も減って行く、それに伴って、教員の定数も減る中で、部活動がどれだけ持てるのかということも、将来的には出て来ると思われる。今、第一中学校では、一つの部活動について、顧問が一人、副顧問が一人という形を基本としている。が、来年度辺りでは、早速、一つの部活動と他の部活動において、顧問を置いて、後、副顧問を両方に跨って、持っていただく必要があるのかなというような心配もしているところである。</p>
岸本委員長	<p>部活動のガイドラインは、大田市も作られていると思う。昨年、一昨年辺りで、部活動のあり方の検討も、スポーツ庁からスタートして、県及び市町村で「部活動ガイドライン」が策定されている。そちらを見ていただければ、いいと思う。</p> <p>この部活動は、教育活動ではあるが、授業ではない。必ず入らなければならないということはない。学校の運営として、より好ましいところでは加入を勧めているところである。これについては、外部指導者的な者も取り入れるということで、今回、ガイドラインに入っていると思う。後は、中体連の大会に合併して出れるかどうかということ、種目によって違うと思う。競技団体によっても違うと思う。また、中学校単位のものと中学校を除いた競技団体の大会も、一方ではあるということになる。</p>
岸本委員長	<p>今日、いただいた意見とか、交換(検討)とかは、次回、ここ(資料)に加筆できるところは加筆して、提示していただくために、意見交換しているということでもよろしいか。</p>
森本課長	<p>はい。</p>
岩谷委員	<p>やはり、よりよい教育環境を作るということを、しっかり話し合っていかなければいけないと思っている。ただ、原案が出ているので、それについて、細かいことを言っていくことになっていて、悲しいと思っていることをご理解いただいた上で、細かいことについて、話をしたい。</p> <p>今日、提案された2(これまでの検討委員会でいただいた意見及び地域説明会での主な意見)のところについてである。「複数学級のメリットがわからない」ということについては、第1回目(の検討委員会)から言ってきたところである。私も同じ考えである。大きい学校で複数学級で鍛えることだけが、いいことではないと思うので、やはり、そ</p>

	<p>ういう点で、記述は、もう少し工夫していただきたいということは、変わらず思っていることである。</p> <p>それから、同じ①のところの「小学校は原則再編しない」という言葉については、やはり、なくてもいいのではないかと思う。「基本的な考え方について」(の枠囲み)のところに書いてある「地域の担い手となる子どもを地域総がかりで育成し」という言葉がある。そうするためには、やはり、最低、小学校6年間までは、地域で、地域をしっかりと見て、地域のことを理解して、地域の課題を掴んでから、大きな学校に行かなくては、とても地域を担えるような心は育って行かないということは、共通理解の基である。多分、このように書かれたということは、小学校を残したいということ、皆さんに伝えたいという事務局側の意図であると思う。が、このように書いてあると、反って、何かあると再編されるのかという、変な勘繰りも受けてしまう。ここの記述についても、検討していただきたい。</p> <p>次に、特認校制度については、一番最初に事務局から説明があった通り、魅力ある学校を作って行けば、特認校になるということ、大きな学校で適応できない子どもたちが行く学校ではないということ、第1回目から、ずっと言っている。是非、この記述の中に加えていただくか、別のところに、就学についての記述があったが、大きい学校で適応できないから小さい学校に移るといような記述があったが、それについても検討いただきたいということ、変わりはない。だから、特認校については、地域と共に魅力ある学校づくりをしている学校を特認校として行くといような記述等があれば、皆さんにご理解いただけると思う。今のところ、義務教育学校になれば、特認校になり、その学校は大きな学校で適応できない子どもが行くといように理解しておられる方も、多分、事務局からすると、それは誤解であると言われると思うが、そのような方も、随分、おられると思う。そういう誤解がないような記述を、是非、お願いしたい。</p> <p>それから、第1回目から言っているが、本当によりよい教育環境といものを、大田市がどう捉えて行くのか、どう考えるのかということ、この短い期間で検討するのは、非常に難しいことであると思う。この長いスパン、7年なら、7年の長いスパンを掛けて、校区の再編も含めて、しっかりと検討する必要があるのではないかということ、第1回目から、ずっと言っている。是非、検討いただきたいし、地域でも、そのような意見が出ているということで、大変心強く思ったので、記述するなり、検討するなりしていただきたいということ、重ねて、言っておきたい。</p>
岸本委員長	先程の最後の部分について、事務局の考えはどうか。
川島部長	実施計画の策定スケジュールの期間ということか。
岩谷委員	この「学校のあり方に関する実施計画」自体、最初、7年間と区切ってあった。この7年間くらいを掛けて、検討して行くことが、私は適切ではないかと考えている。突然、統合という言葉が出たので、皆さん、不安に思っておられると思う。7年間くらいを掛けて、本当に大田市が目指すよりよい教育環境といものは何かということ、皆さんに話し合っていたり、ご理解いただいたりする期間とするのが良いのではないかと、個人的にも思う。
川島部長	最初の(実施計画)案の中では、年度を示して統合としていた。そういうことも含めて、最終的には、保護者への説明会の中でも、教育長の方から説明したところであるが、当然、統合ということになると、(今の)保護者並びに、今後、保護者になられる方、あるいは、地域の方々との話し合いの中で、大筋の何らかの準備会、協議会を設立してもらおう中で、全体の大筋の合意が得られた段階での統合ということになるが、そのことは想定はしていたが、それを文言として書いてなかったことに、先ずは謝罪し、お話をさ

	<p>せてもらったところである。今回、修正案を出させてもらっているが、そうした文言を、しっかり記載した上で、当然、7年間の計画であるので、この計画（期間）の中で、話し合いをしながら、地元の関係する方々が、特に、中学校の場合、良からうという合意が得られたら、統合という形に進んで行く。実際に、統合は7年間の中なのかということは、それは、未だ分からない訳であるが、何年から、そういった形にしようということは（地元の方々の）合意を得て進めて行きたいと考えている。</p> <p>ただ、冒頭に総務課長が説明したが、令和4年度からということで、最短で示させてもらったということは、やはり、高山校区、第三中学校の現状があったが故に、保護者に負担を掛けている、子どもたちにとっても選択の機会というのが、毎年、若干ながらも、そういう現状が出て来ていることも考えた上で、出来るだけ、早い時期に解消する必要があるのではないかとということも含めて、提案させていただいたところである。そのようなことを含めて、今後、話し合いを進めて行ければと思っている。</p>
岸本委員長	<p>今日のところ、全ての地域（ブロック）での意見交換会が終わっていないこともあり、今日は、結論的なことは出ないが、意見交換をさせてもらった。全ての地域での意見交換会が終わったところで、今日の意見交換も含めて、再度、この実施計画（案）を示していただき、先程の議事録のこともあったが、全体が分かるところでの話し合いを進めたいとの提案が委員からあったので、この点について、お願いしたい。</p> <p>それから、この他にも、まだまだ「5 重点的取り組みの実施」とか肝になるところが残っている。このようなところも含めて、どのように運営して行くのか、この後、事務局の方から説明していただく。</p> <p>その前に、今日、ご参加の委員の皆さんに、一人2分程度で、意見、感想などの言葉をいただきたい。</p>
平田委員	<p>今回、地域との話し合いというのは、「学校のあり方に関する実施計画」のスタートであると思う。だから、時間を掛けて、丁寧に、地域の方が、本当に（学校が）こういう状況になっていることを知って、みんなの意見を吸い上げて、地域で納得した形で進めていただきたいと思います。先程、松場委員が言われたが、学校の部活動のあり方も、今後の学校再編に向けて、子どもたちが部活動のために校区外就学をしているという現状があるということなので、それが、何とか解消できる方向を、地域に残って、地域の人と一緒に、特に、小学校の子どもたちが育って行けるような環境を作っていただきたいと思います。急がず、時間を掛けて、じっくり話し合っ、学校というのは、地域、また大田市にとっても、拠点となる場所なので、それを大事に守っていただきたいと思います。</p>
石賀委員	<p>今回、参加させていただき、常々、思うところは、教育委員会の方も、子どもたちにとって、どうかということを行っている。私自身も、そう思うし、各地域ごとで、やはり、状況というか、環境も異なると思う。今の状況では、先程も意見として言わせてもらったが、事が早く進み過ぎて、何とか、それに追いつこうというのか、スケジュールを持って行こうという意図を、私自身、感じている。先程も、平田委員が言われた通り、もう少し、地域と、地域によっては、温度差があつて、話し合いを重ねられる地域もあると思うが、時間ありきではなく、もっと行っていただければ、本当の意味での子どもたちのため、引いては、地域のためになるような、この学校のあり方に関する実施計画の検討委員会になると思う。そういったところにも、スケジュール、開催の日程等、意見交換会も含めて、設けていただければという要望をさせていただきたい。</p>
永野委員	<p>私、この地域（活動関係者）の中のお婆ちゃんの立場として、やはり、地域の子もたちが、いつも元気で明るく楽しく、そういう学校生活を送れるということと、次世代を担っている、地域にとっては宝物のような子どもの存在であるので、子どもたちが、</p>

	<p>そのようにいい生活を送ってくれることを望むし、また、ふるさとは、いつも居心地のいい所であって欲しいと子どもたちには思っていて欲しいという、そういう「ふるさと教育」が出来たら、高齢者の立場として、いつも見守っているよ、いつも話したいことがあったら話してねという、そういう地域の環境を、お婆ちゃんとしての立場で、また、これからも子どもたちに関わって行きたいと思う。</p>
松場委員	<p>保護者の立場として、この会議に関わっているが、この実施計画（案）を見てみると、今のこの状態であると、とても希望が持てない。子どもに対して、大田を誇りに思う背中を見せてやれるかなという心配の方が大きくなって来ている。前回の会議でも言わせてもらったが、小さくても楽しかったり、小さくても美しい、小さいからこそ持続可能な社会を築けるといふところを、子どもたちには見せたいと思い、日々、生活している。もう少し、大田らしい出来ることが、大田市内だけではなく、日本からも、もしかしたら、ここに移住して来る人がいるかもしれない。世界からも注目されるようなものが、きっとあるはずなのに、それが、この案には活かされていない。そこに憤りを感じている。もう少し、私自身も勉強して、これが、本当にスタートであると思っ、ここから、時間を掛けて、最初に提示されたスケジュールであると、私も短いと思うので、もう少し、長い時間を掛けて、（この実施計画に）関わらせていただけたらと思う。</p>
渡利委員	<p>私は、今、松場委員が言われたことも思ったが、もっと具体的に、議事録に関しては、大田市総合計画の議事録は、非常に細かい、委員のそれぞれの心のこもったものまでも細部にわたるまでのものが配られていた。どのような気持ちで、その方々が意見を出されたのかというところまで集約されたものであった。</p> <p>それから、地域での意見交換会に関する日程について、細部にまで、周知が行き渡っていないところがあると思う。委員の責任としては、何らかの方法で、勿論、（その意見交換会に）すぐ出たい方もおられると思うし、自分には関係ないと思われる方もいると思う。それでも、隅々まで行き渡るような周知の仕方を、早めにしていただきたい。井田地区についても、今、聞いたので、帰って、皆さんに周知しようと思う。日程が、隅々にまで行き渡るような方法を取って欲しい。周知が行き届いていないと、変な取り方をすると、開催したことにはしたいのではと言う人もいたりする。開催したけど、来なかったということがないようにしてもらいたい。</p> <p>後、もう一点は、松場委員の意見を受けて、前例が、日本中のどこになくても、大田市で出来るような前例を作りたいと希望する地域が出た時には、是非、どういうノウハウがあるのか、政治的な側面も含めて、協力をしてもらえるような市（教育委員会）と地域の関係でいたいと思う。</p>
高橋委員	<p>冒頭にも言ったが、この会がどこまで論議できるのかという思いである。</p> <p>先程、意見として述べ、少し熱くなった部分もあったが、やはり、渡邊委員が言われたように「器ありきではなく、内容ありき」という気持ちで、これからも、本当に大田ならではの魅力ある教育というものを論議していきたいと思う。</p>
大國委員	<p>私、先程、熱く語らせてもらったので、省略させていただきたい。</p>
三島委員	<p>自分のことになるが、大田が地元ではないので、小学校6年生の時に、児童が3人という小さな学校で、6年生の時に、統合という場面があって、統合した学校も5人しかいなかったの、（統合しても）8人しかいなかった。小さい学校でいいこともあるだろうし、人数が多い大きい学校でもいいことがあると思う。自分の子どもは、現在、大田幼稚園に通わせているが、（人数が）少ないと、先生の目が行き届いて、とてもいい場面もあると思うので、大きいとか小さいとかは関係ないと思う。</p>
大西委員	<p>色々な学校の人の意見を聞く機会がないので、自分の周りのことになる。今、北三瓶</p>

	<p>小学校に自分の子どもを出している。将来、北三瓶小学校に入る予定の子育てサークルがあり、そこのお母さん方に意見を聞くと、やはり、自分の母校でもあるので、自分の子どもも通わせたいという意見が、とても多い。でも、中学校に上がった時、学校はここでも、やりたい部活動をさせてやりたいので、部活動だけでも、放課後に、バスでどこかに行って、好きなスポーツや美術でも音楽でも、好きな子同士で関わられたらという意見をいただいて、今日、この場に来た。そういうふうを考えているお母さん方もいることを伝えておく。</p> <p>後、学校再編のことばかりで、幼稚園のことが、全然、出て来ない。保育園との兼ね合いがあると思う。どういうふうに子ども園になって、どこが管理するのももお聞きしたいので、資料があればいいと思う。</p>
吉村委員	<p>先程、大西委員も言われたが、私、保育園に勤めているので、保育園のことが気になっている。保育園も、再編計画を色々と考えておられると思うが、地域の意見交換会に出られた時も、水上保育園についての意見が出たとの話が、先程あった。そういうところも踏まえて、同じ大田市の子どもを育てている者として、この中では、学校のことばかりが出ているので、保育園、幼稚園についても、一緒に、しっかり話し合いができればと思っている。</p>
武部委員	<p>先程来、言われているが、幼稚園、保育園のことが、なかなか出る機会がなかったのは、仕方がないと思った。この度の最初からの話し合いからすると、やはり、学校再編というところが大きなテーマになっていたの、(幼稚園、保育園のことは) 難しかったと思う。資料No.3のところ、2番目の「④地域とともにある学校について」の中に、「小中学校の中に保育所がある地区があるが…」との記載があった。やはり、地域の中で、保育園、幼稚園の幼児期の教育の大切さを感じていて、実施計画(案)の中にもあるように、「ふるさと教育」の基盤となるところは、乳幼児期に、その地元で育てられて、地元を大切に、地域の伝統、文化等を傳承し、伝えることが、将来、地元に戻って来ようとか(市から)出たとしても、将来、ふるさととはここだということを持って、大人になってくれるのではと思、幼児教育と学校教育とを、どのように繋げて行くべきなのか、そうすると、地域との関わりも大事になってくると思う。保育園も幼稚園も、段々と(園児が)少なくなっている中で、地域とどのように関わって行くのか、地域の方との協力をどのようにして行くのかというところを、また、この会議の中で、話し合うことが出来ればと思う。</p>
藤井委員	<p>今回から参加させていただいた。高橋委員の方から、学校運営協議会の話があった。昨年度まで、大田西中学校の方に勤めさせていただき、仁摩と温泉津、4地区ずつ、8地区ある。それぞれの地域の中から、実際に意見を聞いて、では学校が何が出来るのか、地域では、こんなことができるということを、生徒を真ん中に置いて、考えることができる。学校としては、こんなことがしたい。地域でも、こんな子どもに育てて欲しい。そういうことを、擦り合わせが出来たということは、すごく良かったと思う。また、(地域の方に)応援もしていただき、こんなことも出来るのではというご意見もいただいた。そういった意味でも、これからの学校再編について、是非、保護者や地域の皆さんの声を、慎重に取り上げてもらって、岩谷委員も言われたが、長いスパンで見ただけだと、大変有難いと思う。</p>
岩谷委員	<p>先程から、幼稚園、保育園のことが出ている。この(実施)計画にも、「0歳から18歳までの子どもたち」と書いてあるので、是非、0歳から18歳までのスパンで、話し合いが出来ればいいと思う。それから、先程、渡邊委員も言われたが、「重点的取り組みの実施」について、言いたいことがある委員が沢山おられると思う。そういうところも、</p>

	話し合いが出来れば良いと思っている。
渡邊委員	先程、少子化のことを話題にした。この流れは、なかなか止められないことであると思う。逆に言うと、私の中では、複数学級のメリットというよりも、小規模校にチャンスが生まれつつあると思っている。これからの未来を生き抜く子どもたちのためにも、私は、小規模校というのは、大事にされた方がよいという思いである。
三島副委員長	皆さん方のご意見を伺って、やはり、丁寧に議論を進めて行くことが大事であると、改めて、思った。特に、地域の方々の色々な意見が、まだまだ拾い上げられないのではないかとのご指摘は、大事にするべき声であると思う。そこら辺りを、どういうふうに工夫して、地域の皆さん方の声を集約して、また、このような議論の場に持って来るといふことについて、教育委員会の方も知恵を出してもらいたいと思う。 それから、こんな町に、こんな学校にしたい、そして、そのことが、私達が大田市で住むことの素晴らしさ、嬉しさ、楽しさ、そこに繋がるのではないかとのご指摘は、本当に、その通りであると思う。先程、「重点的な取り組み」について、まだまだ議論が深まって行くべきであるというご意見もあった。これから、大田の魅力、大田の学校教育の魅力を、どうして行くのかという細かい所の意見を、色々出して行くと、今、出しておられる実施計画（案）に、更に、肉付けして行けるのではないかと。それを、教育委員会の方も、今、お話を聞くと、頑なに、これで行くんだという考えではなくて、やはり、地域の皆さんや検討委員会の意見も踏まえながら、それを受け止めながら進んで行きたいというように、私は思ったので、そういう方向で、是非、これからも議論を進めて行きたいと思っている。
岸本委員長	本日は、これで、会を終了しようと思う。今後も、委員の皆さんの総意で、この会を運営して行きたいと思っている。 今日のところは、事務局の方にお返りする。

【その他】（進行：森本課長）

●次回の検討委員会について

次回の日程について、提案する予定であったが、様々な形で、ご意見をいただく中で、直ぐに、この日という状況ではない。改めて、次回の設定については、（各委員に）お尋ねする中で、お知らせしたいと思う。3月中は難しいと思うので、4月になると思われる。

実は、委嘱状の任期について、「令和2年3月31日まで」としている。次年度に向けて、引き続き、お願いさせてもらいたい。事務局の方で、（本検討委員会の）要綱の改正手続きを3月中にして、4月以降、改めて、委嘱させていただきたい。但し、各種団体からの委員については、人事異動等により、交代もあり得ると思っている。その部分については、後任の方に委嘱させてもらうこととなる。

なお、当初、示したスケジュール表では、5月末に、最終的に実施計画を策定させていただき、6月には議会説明という方向としていたが、それも含めて白紙ということで、調整させてもらいたい。

それから、委員長が言われた今後の本会の進め方についても、しっかり組み立てて、ご報告させていただきたい。

●松場委員より提案

事務局へお願いがある。次回の会議の時、検討していただきたいことが一つある。グラフィックレコードを取り入れてもらいたい。（この会議は専門的な面があるので、委員全員が共通認識を持って会議を進めるために導入してもらいたい。）⇒事務局の方で検討させてもらいたい。

以上をもって、第3回検討委員会を終了した。